ソ連の身体文化理論の確立をめざす三つの系譜

田 中 良 子 (法政大学女子高等学校)

(昭和57年5月31日 受付)

Three philosophical schools for the establishment of the physical culture theory in the Soviet Union

Yoshiko Tanaka¹

Abstract

In the Soviet Union, since the 1960's, advancement of the Socialist society into a higher Stage, and the progress made in the field of scientific and technological revolution have been quite significant. As the result of such changes in the society, the objective of physical culture is now defined. While physical culture had been regarded as same concept as physical education before, the concept of physical culture and its position in accordance with the development of physical education and sports have been pursued.

In this study, upon reviewing literature on physical culture in the present day Soviet Union, three philosophical schools behind have been hypothetically pointed out. Problems interrelated each other among these schools have further discussed.

(Yoshiko Tanaka, "Three philosophical schools for the establishment of the physical culture theory in the Soviet Union, " *Jap. J. Phys. Educ.*, 28—1 : 1—11, June, 1983)

研 究 目 的

身体運動, 体育, スポーツ, レクリエーションなどの分野に対して, 文化の面からスポットをあて, 身体文化 (физическая культура) として把握しようとする動向は, 現在世界的に新たな理論研究の領域を拡大してきている。著者はこれまでにソ連の身体文化についての研究を歴史的にたどるための考察を行って来た^{58), 59), 60), 61), 62)}が, 最近の研究の多様化, 細分化の状況をみて, その史的考察の中にそれらの系譜を明らかにする試みを加味することが必要であると考えようになった。

ソ連では, 革命後の1925年に, 初めて身体文化が人間の身体発達, 健康強化を内容とする文化の

一領域であると位置づけられ^{注1)}, その目的と内容が不十分ながらも示された。しかし, その対象や領域, さらに身体教育 (физическое воспитание = 以下, 体育と訳す) やスポーツとの関係などは, 明らかにされていない。以後, 1950年代まで身体文化についての体系的な理論研究は少なく, この時期は専ら体育とスポーツの実践に関する方法論の研究が行われていたが, また一方では教育学から独立した領域としての体育理論, あるいは体育理論からスポーツトレーニング理論が試行されはじめた。

1950年代に入り, アファナシェフとポリシェフが「体育のテルミノロジーの問題³⁾」を提起し, コリャコフスキー^{15), 16)} やククーシキン²⁰⁾がそれ

1 Hosei Girls' High School, 1-13-1 Kishiya, Tsurumi-ku, Yokohama.

それ「体育理論」を発表、またノビコフが「体育理論に関しての概説」³⁶⁾を刊行するなど、体育の理論化や、体育学を教育学から独立した科学として確立する努力を行っている。身体文化については、クラチコ¹⁷⁾やククーシキン²¹⁾が理論的な解明を試みているが、いずれも従来の体育の領域から出ていない。

このような歴史的経過の中で1960年代に入り、体育理論をスポーツ（トレーニング）理論が明確になるにつれ、身体文化の理論が活発に発表されてくる。著者は現在これらの中に、体育理論を基盤にして社会学的な立場から身体文化理論を考えていく系譜、体育、スポーツ分野の理論化から身体文化理論を明確にしようとする系譜、科学・技術革命の時代における身体文化理論を究明しようとする系譜の三つがあると考えている。

本研究は、これらの系譜について検討を加え、

それぞれの系譜で論ぜられている概念、対象、領域、その理論の発展過程及びそれらの系譜間にみられる相互関係を明らかにしたいと考える。

参考文献は学術研究誌「身体文化の理論と実践（Теория и практика физической культуры）」を中心とし、その他の関連著書も参考にした。

本 論

1 三つの系譜とその特性

(1) 第一の系譜

これは、体育理論を基盤にして社会学的立場から身体文化理論を確立しようとする系譜でありポノマリョフ²⁾を中心にした流れである。かれは1960年に有名な論文「社会現象としての体育」⁴³⁾を発表した。その中で体育の社会的意義を明らかにするには、その発生や発展の社会的原理を解明しなければならないとし、体育の発生と労働の役

図1 スポーツの系統的分析。ポノマリョフ「身体文化の理論と実践」誌，1977，2，p.51.

割、教育と体育の関連などについての考えを明確にすることの必要性を強調した。これを契機にヤナニス⁶⁷⁾、ワシリエフ⁵⁾、ヤコブレフ⁶⁶⁾、シュバロフ⁶⁵⁾、ノボセロフ⁴²⁾、タラエフ⁵⁷⁾など、ポノマリョフの論文に対し、概念規定の不明確さや従来のソビエト的体育理論の枠内の論旨であるなど、1960年から62年にかけて批判的見解を展開している。

これに対してポノマリョフは、再度体育の史的考察の重要性を説き、それが身体文化やスポーツの理論と方法論を発展させる鍵であることを述べ、批判的論文にこたえている。

ポノマリョフを中心にして展開されている論文には、社会主義社会の発達した段階における多くの問題が提示されていて興味もたれる。

1974年にポノマリョフは、身体文化の概念について「科学としての身体文化理論に関して」⁴⁹⁾を発表した。その中で身体文化の理論研究が、より科学的なものになるためにはどのように考えるべきか、という問題を提起している。それは現在までに明らかにされてきた理論が、科学として存在するためには、これまでの体育理論の中では対応

出来なくなっており、広いカテゴリーへの移行が必要になってきていること。即ち社会現象として存在している以上、現在の状況に相応した理論を持っていなければならないと主張するのである。そして身体文化理論の「身体文化とは、身体の全面的発達のための社会的活動とその活動によって作り出された物質的、精神的総体（規範に則った身体運動とその技術）とさらにそれを利用する過程である。身体文化の『身体』は、社会的、生物学的、精神的、物質的な面が総合されているもので、その文化は特別な文化である。が何よりもまず社会現象である」（ポノマリョフ⁴⁹⁾）、と定義し、社会、経済、教育などと結びついた一般文化のサブシステムとして位置づけている。

身体文化の機能については、教育機能を中心においているが、それが全てではなく、社会現象であることを強調し、教育についても教育学的过程であると同時に社会学的过程であること、そのため身体文化理論の内容に社会学を含むべきであることを主張している。

身体文化理論については、身体文化の発達の社会的、教育学的法則に関する科学であり、その

図2 身体文化の価値アспект、ウィドリシ・ニコラエフ「身体文化の理論と実践」誌、1979、7、p.7.

客観的領域としては、体育とスポーツの分野に
 いているが、その対象には、体育とスポーツの理
 論とその社会学的基礎、即ち体育理論、スポーツ
 理論、体育とスポーツの社会学を考え、体育とス
 ポーツを通して果される重要な社会的機能を「系
 統的研究法」によって分析する必要があることを
 述べている。かれ自身、1977年に「スポーツの系
 統的分析の試論」⁵¹⁾を発表し、スポーツシステム
 の複雑性を克服する方法として、そのモデルを具
 体的に提示している。(図1)

ポノマリョフと研究を共にしているウィドリン
 とニコラエフは、「身体文化の概念の内容、領域、
 構造」⁶⁾の中でポノマリョフの考え方を支持
 し、「身体文化は、一般文化のサブシステムであ
 り、それは国民の身体的完成分野においてその価
 値をつくり出し、獲得していく活動の社会的な結
 果である」(ウィドリン・ニコラエフ⁶⁾)、として
 いる。そして体育とスポーツを文化としてみるな
 らば、その価値論的見解を明確にしなければ身体
 文化を全面的に理解することは不可能であることを
 を主張し、1979年に「身体文化の価値アスペク
 ト」を発表している⁸⁾。(図2)

ポノマリョフは1980年には「人間の身体の上
 と社会」⁵⁴⁾を発表しているが、これらは、身体文
 化を人間の社会活動面から考察し、社会学的見地
 によって解決していこうとするものである。かれ
 の考えを明確にとらえることの出来る論文に1978
 年に発表された「ブルジョアの補償理論批判」⁵²⁾
 がある。

それは、世界の多くの国々で現代の社会からの
 あつれきが、人間に対する機械化、自動化の文明
 から生じるものであるとして、人間性回復をスポ
 ーツに求めようとする理論が盛んであるが、それ
 は社会発達のゆがみから、人間の全面的発達の要
 求が、一面的発達に追いやられ、人間と技術、個
 人と集団との間の問題にすりかえられていると指
 摘している。これは1966年にノビコフ^{注3)}が「体
 育理論の諸問題」³⁸⁾に発表した考えを更に発展さ
 せたものである。

(2) 第二の系譜

これは体育、スポーツ分野の理論化から身体文
 化理論を明確にしようとする系譜であり、現在ソ

連の身体文化についての主流をなしている。

ソ連のスポーツ理論は、主として体育理論の分
 野で長い間発展してきたが、1960年以降、スポ
 ツが急速に発達し、専門知識が蓄積されるにつれ
 てスポーツ理論が体育理論から分離し、相対的に
 独立の科学へと分化する傾向が現れている。同時
 に学際的学問の前進と各知識分野の総合化へと進
 む傾向が現れ、それらが互いに作用し続けている。

このような中でこの第二の流れは、これまでの
 理論的研究の主流であった体育理論に基盤をおい
 てスポーツ理論を究明しつつ、身体文化理論を明
 確にしていこうとしており、その中心はマトベ
 ヲフ^{注4)}のグループである。

マトベエフは、「体育理論は、人間の身体的完
 成過程の統御の一般法則に関する科学である。こ
 れは人間の身体発達過程の教育学の統御の一般的
 法則、人間の身体的構造の法則、体育と他の教育
 の法則にかなった相互関係を研究する科学であ
 る」²⁹⁾と述べている。スポーツが体育とかかわる
 のは、スポーツが体育の特殊な手段、方法の一つ
 として用いられるからで、ある種のスポーツは、
 体育の手段とならないことや、体育に間接的関係
 しかもっていないことをあげて、両者の非帰一性
 を主張している。

「スポーツ理論は、スポーツの特性や成果を得
 させるための訓練の法則性、原則的内容、組立方
 法などを明らかにする使命があり、現段階でそれ
 を条件づけるのは、スポーツの発展であり、『大
 衆スポーツ』(массовый спорт)と『競技スポ
 ツ』(большой спорт)への分化である」(マトベ
 ヲフ²⁹⁾)、としている。そしてスポーツの知識体系
 の中心に、スポーツトレーニングの理論と方法
 論、即ち、「スポーツ訓練の理論と方法論」を位
 置づけている。これはスポーツの教授と学習の法
 則を反映し、スポーツを行う原則的方法を確立す
 る役割をもった教育学的分野の知識である。この
 知識分野に「スポーツ教育学(спортивная педагог-
 ика)」と名を付している。(図3)

「スポーツ教育学」は「スポーツ教授法」と
 「スポーツ教育の理論と方法論」であるが、スポ
 ーツ教育学の『教育』という語は、知育、徳育、
 美学の教育に加えて身体能力の訓練を加味してい

図3 スポーツの理論システム（原理的構成図）。

マトベエフ「身体文化の理論と実践」誌，1972，3，表紙裏。

る。これは、体育理論を基盤にしながらスポーツ理論を専門分野として形成し、社会科学と自然科学の知識を総合させようとしているものである。

1975年に「身体文化とスポーツの理論的基礎の形成問題」³⁰⁾、1978年に「ソビエト体育システムにおける理論体系の基礎及び身体文化領域における科学の発達に関する今後の問題」³¹⁾を発表している。

1975年の論文の中で「身体文化は、人間の志向的、身体的完成の創造という体育と同様に、より広い社会目的のために合理的に利用し、多様な形

式で存在している。身体文化に対し体育は、最も本質的、普遍的な身体文化の存在、機能、利用形式である。身体文化は、規則正しい教育過程の範囲に示されていて、共通部分は利用形式であるが、完全に一致はしていない」(マトベエフ³⁰⁾)、と述べている。

ポノマリョフが体育、スポーツを身体文化のサブシステムと位置づけているのに対し、マトベエフは、それらの上下関係を概念としては考えてはいない。それらの関係を図4のように表わしている。

- A. 総合的(方法論的)身体文化とスポーツ理論の位置
- B. 身体文化とスポーツ社会学
- B. 身体文化とスポーツの科学的、組織的管理及び経済的基盤
- Г. 職場、日常、健康増進、レクリエーション、回復の身体文化理論と方法論
- Д. スポーツ理論と方法論
- E. 体育理論及び方法論

点線部分は互いに重なる中間分野で身体文化理論総合のための最も多くの先決条件が作られているところである

図4 身体文化とスポーツ形成及び幾つかの中間分野との相互関係。

マトベエフ「身体文化の理論と実践」誌、1975,11,p.69.

「身体文化理論は、図4のAからEの交差部分において発生している」(マトベエフ³⁰⁾)としている。即ち、身体文化理論が密接に体育理論と関連し、その他、身体文化の歴史と社会学、科学的、組織的管理及び経済的基盤、職場や日常習慣としての健康増進、レクリエーション、リハビリテーションの身体文化とスポーツなどとも関連している、というのである。この中で特に、身体文化理論とスポーツ理論の相互の関係の問題の分析が必要であることを強調している。

マトベエフの考え方を支持しているのは、フォーミンである。かれは、身体文化の理論が体育理

論として生まれ、当初、この両方の研究対象が殆ど一致していたこと、しかし、現段階において蓄積された身体文化に関する知識は、体育理論の領域に入らなくなり、身体文化理論を体育に関する科学的知識の総合として位置づけられること、それを前提にして、スポーツを次のように位置づけている。

「スポーツは、身体文化の一部ではあるが、一連のスポーツ種目が身体文化の領域を越えている」⁶⁴⁾と考え、「それはスポーツ活動が身体文化の領域において身体発達の諸課題を直接的に解決しないからであり、従ってスポーツの概念は、身

体文化の概念の中には全面的には含まれないのである。

ソ連において日常使用されている『身体文化・スポーツ』という用語は、このような解釈を反映することが出来る」(フォーミン⁶⁴⁾)としている。

マトベエフの基盤になっている考えの歴史的な発展をたどると、体育理論の確立に貢献をしたノビコフの系列であったことがわかる。ノビコフによると、体育理論は教育科学体系の中に含まれるが、比較的独自の科学的、教育領域であること、また体育理論は、スポーツの特殊な理論や方法論と関連し、その関連分野の独自の知識領域は、体育理論から区別されてはいても体育理論に立脚するという、スポーツ理論と方法論は、体育理論を育てるということを述べている³⁷⁾。

後にマトベエフは、ノビコフと「体育理論」³⁹⁾を刊行している。

マトベエフを中心にした流れは、一言でいえば、身体文化理論を確立するために、体育とスポーツの分野の理論化をすすめていこうとするものである。

(3) 第三の系譜

これは科学・技術革命の時代における身体文化理論を究明しようとする系譜である。現在の科学・技術革命の著しい進行は、生活環境に大きな変化を生じさせており、それに対応するために全年代にわたる身体文化の内容と形式を最良のものとするための基本的研究を試行するものとしての流れが、生れはじめて来ていると考える。その最たるものは、クズネツォフ^{注5)}に代表される。

かれは、1979年に「スポーツ——人間の潜在能力の科学的認識の基本的要因」¹⁹⁾という論文を発表している。

論文によると、社会進歩や科学技術の進歩、環境によって変化した生活条件と関連して、人間生来の性質、特性、能力の最大限の活用を科学的に基礎づけることをめざしている。これは、既に航空宇宙医学や宇宙生物学、労働心理学や工学心理学、その他の学問分野において、人間のもつ潜在能力の研究がなされているが、スポーツの分野においても、科学的、総合的に把握する条件が作り出されているとして、新しい学問を構築するた

めに、一流選手の科学的トレーニングにおける諸現象を詳細に、科学的に研究している。

それは身体組織能力の限界域内で緊張を再生し、健康な人間のもつ潜在能力の総合研究において、新しく独立した学問として、アントロポマクシモロギヤ^{注6)} (антропомаксимология) と呼び、いわば「人間能力の最大の限界にかかわる学問」を構築しようとしている。

「人間最高能力開発学」は、今後の新しい条件の中で生きていくための人間の持つ潜在能力を高めていく方法を規定し、日常生活に現れる能力の最大活用プロセスの共通法則を明らかにしようとするものである。

この身体文化の本質にせまるスポーツ理論からの新しい人間研究の学問は、多くの研究者の注目を集め、ソ連邦科学アカデミーの各界権威者による会議¹⁾が、賛否両論の論争の中で開かれた。ここから新しい方向への発展が開かれつつあるように思われるが、それは、今後の研究に期待される。

以上、1960年以降、最近までのソ連における体育理論とスポーツ理論の研究の中から、特に分化と総合をめざす三つの系譜について述べてきたが、ソ連の現段階において、身体文化、スポーツ、体育についての一般的な考え方をあげると以下のようである。

「身体文化は、一般文化の特殊分野であり、社会活動の一部門を成し、国民の身体能力の発達にむけられた科学的、実践的成果の総体である。身体文化は、一定の構造を持った統一的で、複雑かつダイナミックなシステムであり、多面的現象である。また身体文化は、一定の歴史的条件によって生みだされたもので、国民全体の財産であり、個人の全面的調和的発達のための重要な手段である。これまでに得られた成果はすべて今後の身体文化の発展にどのように作用し利用され得るのかという点が重要である。

スポーツは、特殊な文化形態で社会の文化活動の一部をなしている。健康の増進、身体能力の発達、青年と成人の身体的完成、意志の強化、道徳的、美的教育、国民の身体文化水準の向上などの重要な手段である。また、スポーツは、社会的な

組織的活動であり、国民への普及とスポーツ技能の向上である。

体育は、社会的な組織的な教育過程であり、人人の身体と精神の形成、身体的完成の達成を目的としている。身体的完成をめざす生活において重要な運動技能の養成と向上、それに関連した知識の習得は、体育の果すべき機能である。また体育以外の教育の課題の解決も担っている」^{注7),23)}という内容である。

これは、身体文化、スポーツ、体育が国民に共通に認識されている部分と、研究者が身体文化理論を確立するために、それぞれの研究分野からアプローチする観点を包括するものであるといえる。

2 三つの系譜の相互関係

身体文化を社会現象として把握しようとしているポノマリョフは、クズネツォフのアントロポマクシモロギアに関する会議¹⁾に参加している。その中でかれは、「人間個人の問題をとりあげ、生活の様々な側面に応じて高い成果を得ることが出来るならば個性、個人差を明確にする方向も考えられる」と慎重な態度をとりながら、新しい方向の発達を重視している。

一方、マトベエフは、クズネツォフの「人間最高能力開発学」に対し1980年1月に批判的な論文³²⁾を発表している。その内容は、マトベエフが常

に主張している健康な人間の技能と能力の潜在的可能性を日常活動の中で、合法的に形成するという考え方から、この理論は「最高度のスポーツ技能を有する者の理論である」(マトベエフ³²⁾)と指摘し、そこには、より多くの者のためのものとする科学的分析や論証の方法、導き方の不明確さがあることをあげている。また「人間最高能力開発学」と人間の科学との一般的体系関係が明示されていないことも批判の論点としている。

しかし、同年12月にかれが発表した「身体文化とスポーツ理論の将来的完成へむけて³³⁾」の論文では、クズネツォフの論文及びポノマリョフの研究に少なからず影響を受け、社会学的考察と現在考えている問題についてのかれ自身のこれまでの考え方を前進させ、身体文化とスポーツ理論の未来像について述べている。

そこでは、最近のソ連の身体文化についての取り扱い傾向として、スポーツを大きく取り上げることは、むげには否定しないが、それ以外の構成要素や実施形態が科学的に究明されることから取り残されていることを指摘し、身体文化の社会的役割や形態も改めて考察することが重要であるとし、その総合的研究の出発点として、図5のような将来に向けてのマトベエフ自身の考えを提示している。

1975年に発表した図4と比較すると、円錐から

図5 身体文化の基礎的構成要素の構造図。

マトベエフ「身体文化の理論と実践」誌, 1980, 12, p.12.

球にモデル化の形が変り、それは完成へと変化していることが示されている。

図5のかれの考えるスポーツについてとりあげてみると、クズネツォフとの関係がみられる。そこでは、高度の能力達成への競技スポーツに研究が多く費やされているが、スポーツの特性の多くは、基礎的な身体文化の科学的基盤の深化の問題が解決され得ないということ。大切なことは、大衆スポーツが、労働能力向上と個人の全面的、調和的発達のために使用される時間と力の関係のバランスがとれていること、スポーツに参加することによってその結果のみならず、多くの成果が得られることを示されねばならないことをあげ、大衆スポーツのあるべき方向を述べている。

マトベエフは、これらの身体文化理論についての追求の仕方によって、東独のエルバッハ(Erbach)やトログシュ(Trogisch)などのスポーツ理論へも言及することになる。

マトベエフは、エルバッハたちが、その中心に「トレーニング論」をおきながら、スポーツ科学を身体文化とそれに関連している全ての分野まで含みこみ、身体文化科学をスポーツ科学の名で総称する立場には、賛成出来ないとしている²⁹⁾。

結 語

以上、1960年以降のソ連の身体文化理論についての諸論文の中から、三つの系譜とその間の相互作用と思われる問題を考察した。

いずれも、身体文化の概念をとらえる基盤、位置づけ、領域などで異っており、身体文化に含まれる諸側面、諸要素、構造、方法論などの独自の究明と、一方では、それらの総合への両面をきわ立たせながら、全体としてソ連の新しい身体文化理論の確立をめざして努力している。そしてそれらの問題の中心にスポーツについての位置づけの問題がある。

ここしばらくは、スポーツの一層の発展にともなうソ連の身体文化理論における諸問題が、大きく展開されていくと予想される。

付 記

本研究は、昭和56年度法政大学中・高等学校研究助成金の交付を受けた。

注

- 1) 1925年ロシア共産党(ボリシェヴィキ)中央委員会の決議
- 2) 国立レニングラードレスガフト体育大学教授、教育学博士、ユネスコのスポーツ社会学委員会委員
- 3) 国立モスクワ中央体育大学教授、教育学博士、1974年没、体育理論の確立に貢献した。
- 4) 国立モスクワ中央体育大学教授、教育学博士、1950年代より、スポーツトレーニングの研究に取り組み、65年、トレーニングの周期化の理論を発表、多くの国々でその理論が実践、応用されている。現在ソ連邦スポーツ委員会科学会議付属ソビエト体育システム委員会議長
- 5) 教育学博士、ソ連邦科学アカデミー会員、科学アカデミー人間総合研究委員会委員
- 6) атрономаксимология の訳語がこれまでにないため、とりあえず「人間最高能力開発学」としておいた。
- 7) この文献の著者は、各分野の権威者56名からなり、体育専攻者用の著書である。

引用・参考文献

- 1) “Антропомаксимология за<круглым столом>Журнала,” Теория и практика физической культуры (以下は ТиПФК. と略す), 10: 41—47, 1978.
- 2) Артемов, В.А. и Подалко, э.П., “О системном подходе к культурно спортивной деятельности,” ТиПФК., 9: 63—65, 1977.
- 3) Афанасьев, Н.Н. и Большев, П.Е., “К вопросу о терминологии в физическом воспитании,” ТиПФК., 4: 296—300, 1951.
- 4) Ашмарина, Б.А., Теория и методика физического воспитания, Физкультура и Спорт (以下は ФиС. と略す): Москва, 1979. pp.10—36.
- 5) Васильев, Е.П., “К вопросу о физическом воспитании как общественном явлении,” ТиПФК., 6: 467—69, 1960.
- 6) Выдрин, В.М. и Николаев, Ю.М., “Содержание объем и структура понятия <Физическая культура>,” ТиПФК., 9: 8—10, 1974.
- 7) Выдрин, В.М. и Решетнева, Г.А., “Системный подход в исследовании физической культуры,” ТиПФК, 3: 5—7, 1978.
- 8) Выдрин, В.М. и Николаев, Ю.М., “О ценностном аспекте физической культуры,” ТиПФК., 7: 5—8, 1979.
- 9) Выдрин, В.М., Введение в специальность, 2-е, ФиС.: Москва, 1980. pp.8—15.
- 10) Выдрин, В.М., (Ред=編集者) “Спорт в современном обществе,” ФиС.: Москва, 1980. pp.9—45.

- 11) Гурвич, С.С., "О системе категорий спортивных наук," ТиПФК., 1 : 59—62, 1977.
- 12) Евстафьев, Б.В., "О сущности физической культуры и ее компонентном составе," ТиПФК., 6 : 45—49, 1980.
- 13) Жолдак, В.И., "Некоторые проблемы научного языка и комплексное изучение физической культуры," ТиПФК., 3 : 61—64, 1971.
- 14) Колесов, А.И., Кузнецов, В.В., Новиков, А.А., Орлов, В.А. и Ратов, П.П., "Тенденции использования системного подхода в теории физического воспитания и спорта," ТиПФК., 11 : 25—30, 1977.
- 15) Коряковский, И.М., О предмете советской теории физического воспитания, ФиС.: Москва, 1951.
- 16) Коряковский, И. М., Теория физического воспитания., ФиС.: Москва, 1953.
- 17) Крачко, П.А., Физическая культура. Основы советской физической культуры в научно-популярном изложении, ФиС.: Москва, 1948.
- 18) Кузнецов, В.В. и Новиков, А.А., "Основная направленность теоретических и экспериментальных исследований современной системы подготовки спортсмена," ТиПФК., 1 : 66—69, 1971.
- 19) Кузнецов, В.В., "Спорт—основной фактор научного познания резервных возможностей человека," ТиПФК., 3 : 45—48, 1979.
- 20) Кукушкин, Г.И., Теория физического воспитания, ФиС.: Москва, 1953.
- 21) Кукушкин, Г.И., Советская физическая культура—важное средство коммунистического воспитания, ФиС.: Москва, 1953.
- 22) Кукушкин, Г.И., "О совершенствовании советской системы физического воспитания," ТиПФК., 6 : 56—59, 1968.
- 23) Кукушкин, Г.И. (Ред.), "Советская система физического воспитания," ФиС.: Москва, 1975. pp.23—40.
- 24) Кукушкин, Г.И., "Физическая культура развитого социализма," ТиПФК., 12 : 36—38, 1980.
- 25) Матвеев, Л.П., "О некоторых понятиях связанных с характеристикой двигательной деятельности человека," ТиПФК., 9 : 710—13, 1959.
- 26) Матвеев, Л.П., Пиясевский, К.А., Филин, В.П. и Багдасаров, С.П., "Опыт построения спортивной тренировки," ТиПФК., 6 : 423—27, 1961.
- 27) Матвеев, Л.П., Проблем периодизации спортивной тренировки, 2-е, ФиС.: Москва, 1965.
- 28) Матвеев, Л.П., "Развитие научных основ советской школы спорта (общетеоретический аспект)." ТиПФК., 11, 12 : 11—13, 5—11, 1967.
- 29) Матвеев, Л.П., "Теория спорта как наука и учебный предмет," ТиПФК., 3 : 62—67, 1972.
- 30) Матвеев, Л.П., "Вопросы формирования общетеоретических основ Физической культуры и спорта," ТиПФК., 11 : 65—70, 1975.
- 31) Матвеев, Л.П. "О формировании общих теоретико-методических основ советской системы физического воспитания и проблемах дальнейшего развития обобщающих знаний в сфере физической культуры," ТиПФК., 3 : 65—69, 1978.
- 32) Матвеев, Л.П., "К проблеме так называемой антропомаксимологии," ТиПФК., 1 : 49—52, 1980.
- 33) Матвеев, Л.П., "К перспективам разработки общей теории физической культуры и спорта," ТиПФК., 12 : 11—15, 1980.
- 34) Matveyev, L.P., Fundamentals of sports training, Progress publishers.: Moscow, 1981, pp.23—29.
- 35) Натлов, Г.Г., "Система понятий теории спорта и способов ее изложения," ТиПФК., 2 : 57—60, 1974.
- 36) Новиков, А.Д. "Очерки по теории физического воспитания," ФиС.: Москва, 1959.
- 37) Новиков, А.Д. (Ред.) (高部岩雄訳), 体育学入門, 三一書房, 1965. pp.13—14.
(Теория физического воспитания, ФиС.: Москва 1960.)
- 38) Новиков, А.Д., "Проблемы теории физического воспитания," ТиПФК., 5 : 11—16, 1966.
- 39) Новиков, А.Д. и Матвеев, Л.П., Теория и методика физического воспитания. Итом., ФиС.: Москва, 1967. pp.38—57.
- 40) Новиков, А.Д. и Задворский, В.М., "О престоijke преподавания курса теории и методики физического воспитания и спортивной тренировки в институтах физической культуры, ТиПФК., 11 : 47—51, 1970.
- 41) Новиков, А.Д. и Рутберг, Н.И.: "Об основных направлениях научных исследований марксистских социологических проблем физической культуры и спорта." ТиПФК., 3 : 68—69, 1972.
- 42) Новоселов, Н.П., "О сущности Физического воспитания как общественного явления." ТиПФК., 2 : 131—32, 1961.
- 43) Пономарев, Н.И., "Физическое воспитание как общественное явление," ТиПФК., 4 : 283—87, 1960.
- 44) Пономарев, Н.И., "Некоторые вопросы развития истории физической культуры," ТиПФК., 1 : 50—54, 1962.
- 45) Пономарев, Н.И., "О соотношении научного и учебного в физическом воспитании," ТиПФК., 1 : 2—4, 1970.
- 46) Пономарев, Н.И., "Физическая культура как пот-

- ребность общественного развития,” *ТиПФК.*, 10 : 2—4, 1971.
- 47) Пономарев, Н.И., “К вопросу о предмете марксистской социологии физической культуры и спорта,” *ТиПФК.*, 1 : 62—65, 1973.
- 48) Пономарев, Н.И., “Спорт и общество,” *ТиПФК.*, 6 : 72—74, 1973.
- 49) Пономарев, Н.И., “О теории физической культуры как науке,” *ТиПФК.*, 4 : 49—53, 1974.
- 50) Пономарев, Н.И., “О системном подходе в исследовании проблем физической культуры и спорта,” *ТиПФК.*, 7 : 5—8, 1976.
- 51) Пономарев, Н.И., “Опыт системного анализа спорта,” *ТиПФК.*, 2 : 50—55, 1977.
- 52) Пономарев, Н.И. и Коротков, В.И., “Критика буржуазной теории <Компенсации>,” *ТиПФК.*, 7 : 5—8, 1978.
- 53) Пономарев, Н.И., “Проблемы социологии физической культуры и спорта,” *ТиПФК.*, 8 : 47—50, 1979.
- 54) Ponomarev, N.I., “Society and man’s physical improvement,” *Problems of the world*, 86 : 127—31, 1980.
- 55) Riordan J., *Sport in Soviet Society*, Cambridge University Press: London, 1977. pp.1—8.
- 56) Столяров, В.И., “Актуальные проблемы философии и социологии спорта,” *ТиПФК.*, 12 : 7—10, 1980.
- 57) Талалаев, Ю.А., “Об исторических предосылках возникновения физического воспитания как явления общественной жизни,” *ТиПФК.*, 9 : 691—93, 1960.
- 58) 田中良子「ソビエトにおける『身体文化』の考え方」*体育科教育*, 28—6 : 71—75, 1980.
- 59) 田中良子「ソビエト身体文化論の史的考察, その1, 70年代を中心に」第31回日本体育学会発表資料, 1980.
- 60) 田中良子「ソビエト身体文化論の史的考察, その2, 最近の体育理論とスポーツ理論」第32回日本体育学会発表資料, 1981.
- 61) 田中良子「ソ連の70年代の身体文化論」法政大学教養部紀要, 40 : 1—12, 1982.
- 62) 田中良子「ソ連の5か年計画と身体文化」第33回日本体育学会発表資料, 1982.
- 63) Фомин, Ю.А., “О структуре теории физической культуры и взаимоотношении ее частей,” *ТиПФК.*, 4 : 58—60, 1973.
- 64) Фомин, Ю.А., “Системный подход и теория физической культуры (к дискуссии о системном анализе спорта),” *ТиПФК.*, 6 : 56—58, 1978.
- 65) Шувалов, Ф.П., “Об основных законах физического развития, образования и воспитания,” *ТиПФК.*, 8 : 608—12, 1960.
- 66) Яковлев, В.Г., “Соблюдать Ленинский принцип партийности в вопросах теории физического воспитания,” *ТиПФК.*, 7 : 529—32, 1960.
- 67) Янанис С.В., “О физическом воспитании и физическом развитии,” *ТиПФК.*, 5 : 373—76, 1960.